



つちゆ芸術万華郷実行委員会メンバー

特集 第2回「アラフドアートアニュアル2014」



土湯温泉町×現代アートのチカラ

会期 平成26年 9/5(金) ▶ 10/13 (祝・月)

■問い合わせ/つちゆ芸術万華郷実行委員会 [熱元気アップつちゆ内] ☎024-594-5037

未来に何を残していけるか
言葉を超えて感じ合う

まちづくりと芸術活動
思いのすり合せに苦労

きっかけは、震災前に16軒あった土湯温泉町の旅館のうち5軒も廃業に追い込まれたことでした。「未来が想像できない混沌の中、自分たちの手で何ができるのか。協力してくれた大学の方などを交えて、何回も話し合いを重ねました。そして、現代アートという新しい可能性にたどり着きました」と実行委員長の佐久間智啓さん。街の活性化をコンセプトに2年に一度、芸術祭を開催している町があると聞き、平成24年5月に「中之条ビエンナーレ」(群馬県中之条町)を視察しました。「土湯でも開催をと思い、翌年秋の実現を目指して12月に土湯温泉町の有志を中心に実行委員会を立ち上げました」

地域の反応は、現代アートという未知のものに、不安や心配があり最初は距離がありました。しかし、一軒一軒あいさつをして回ったり、一生懸命準備を進めるうちに街の人たちからの理解や協力を得ることができました。

最も時間をかけたのは、実行委員会とアーティストの皆さんの思いのすり合せでした。「『まちづくり』と『芸術活動』と、相いれないものを一つにしようとするから無理が生じてくる。ならばあえてそこは、相いれなくていい。アーティストの皆さんには、我々が芸術活動を通してまちづくりをしようとしているこの環境を活用して、芸術活動をしてくださいと伝えました。そこから互いの気持ちがあはれてつながって行きました」

一段と高くなった秋空の下、開催された第1回「土湯アラフドアートアニュアル」には、39日間で約1万2,000人が訪れました。土湯温泉町内15カ所に展示された現代美術を自由に巡って楽しんでいました。「予想を上回る反響。しかも初めて土湯温泉町を訪れるお客様が多く、本当にうれしい手応えでした」

土湯温泉町の「アラフドアートアニュアル」は、地域再生や人と人をつなぐ「まちづくり」の一助にしたいと始めた活動です。国内外のアーティストの作品が飾られ町全体をアートにした昨年の第1回目の芸術祭には、全国から約1万2,000人が訪れました。これまでの経緯や第2回の見どころなどをつちゆ芸術万華郷実行委員会(以下、実行委員会)の委員長・佐久間智啓さんにお聞きしました。

※アラフド(新踏土):「初雪を踏み固め新しい道筋を作る」ことを意味する地元の言葉
※アニュアル:年1回行われる

第2回も「思い」と「夢」「希望」で開催

土湯温泉町のために、自分たちにも何かできないかと何度も話し合いました。実行委員会も全てが初めてのことで、いくつかの問題をみんなで知恵を出し合って解決してきました。第2回も、みんなの『熱い思い』と『夢』『希望』を一つにして準備を進めていきたいと思っています。



つちゆ芸術万華郷実行委員会委員長
さくま ともひろ
佐久間 智啓さん

※1 「部屋の部屋」清水玲さん 2 「起き上がりコケシ」山崎哲史さん×いずみひなさん×小杉朋子さん
3 「つち大根」山田浩之さん 4 「DAILY ART CIRCUS003」開発好明さん他
5 「ほくらのラビュタ作戦」筑波大学創造的復興プロジェクト体験・体感ラボ
6 作品以外にも土湯こけしの行灯などがあります
※5・6 福島芸術計画×Art Support Tohoku-Tokyoの協賛事業です